

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0570306381		
法人名	社会医療法人 興生会		
事業所名	高齢者グループホームふれあい荘		
所在地	秋田県横手市杉沢字中杉沢400		
自己評価作成日	平成22年 6月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成22年11月4日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

同敷地内に介護老人保健施設があり、医療面・緊急時・勉強会への参加などバックアップしてもらえる体制があること 同法人精神科病院医師に相談しやすい体制があること 研修など外で学ぶ機会を持つようにし、質の向上を図るようにしていること ・スタッフの人数が多いことで、行事や外出など対応しやすい環境であること
--

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

社会医療法人立のホームであり、管理者も横手市グループホーム情報交換会の中心的な役割を担っていることから、地域の医療・福祉・行政関係者との連携が取りやすく、必要な情報の収集力も期待できる。「理念」を柱とした支援や「地域」との協働について理解と実践に努めており、資格取得や研修参加など、職員の働く意欲を考慮しながらサービスの質向上を目指している。利用者の能力や意欲を日常生活に活かすとともに、利用者や家族の要望や思いを尊重する支援をホームの方針としており、職員が理解した上で取り組んでいることが確認できた。ホームの課題が何であるかを客観的に捉えることができ、家族、地域や行政などの理解と協力を得ることで、課題を克服していこうという意欲が感じられるホームである。
--

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)+ (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として、地域に密着した信頼されるサービスの提供を基に、GH内で具体的な理念におとし、実践につなげるよう努めている	理念を事務所内に大きく掲げ、日常的に職員が意識できるようにしている。理念を柱にして、地域との連携・協働を現在の実践テーマとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、また事業所の行事の呼びかけや地域の行事などへの参加など、日常的な付き合いまでは至っていないが交流に努めている	地域住民と近い場所に同法人のグループホーム(ふれあい荘2号棟)ができたことにより、芋煮会などの行事を合同で行ったりするなど、地域行事への参加が進みつつある。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	機会も少なく、地域貢献まで至っていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員全員が出席できるよう参加し、会議内容は家族に渡し、職員も回覧しその後のカンファレンスなどで、そこでの意見を質の向上に活かすようにしている。	会議は2ヶ月毎に開催されている。ホーム内の状況を報告し、互いの意見を交えることで、家族や地域住民の理解と協力が進み、職員の意識も変わってきた。	議事録の内容について、ホームからの事業説明の他、今後は具体的な意見交換の様子についても記録し、家族や地域に伝えていくことが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横手市から月2回介護相談員が来荘され入居者の要望など気軽に話し合えるよう心がけている。また、運営推進会議でも担当者が出席してくれることで協力関係が築きやすい環境である	運営推進会議への参加の他、横手市内のグループホーム全事業者が参加する情報交換会へも参加しており連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や、カンファレンスなどで理解に努め、マニュアルも確認しながら身体拘束ゼロのケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。管理者が中心となり、身体拘束の定義について理解と周知を図っており、マニュアルも整備されていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、カンファレンス、日々の申し送りなどを通して、再確認し虐待防止の徹底に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を学ぶ機会がなくきちんと理解するまでには至っていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	管理者が窓口になり、利用者、家族に十分説明を行い、理解を得ている		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族との日常的な場面、また話しやすい環境や場面をつくるよう努めている。また横手市の介護相談員が入ることで外部者へ話せる機会もあり、報告をもらい運営に反映させている	利用者個別のノートで情報交換したり、利用料の支払時に意見や要望を聞き取り、誠意を持って対応するよう心がけている。運営に関する内容については、運営推進会議で意見を拾い上げている他、苦情の受付窓口・手続きも明らかにしている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することでの意見交換の機会は少ない	ホームは病院を母体とした社会医療法人の事業所で、理事長や院長と職員が直接意見交換する機会とはとれないが、管理者が職員の意見、希望を聞いて運営に反映させるためのパイプ役となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	代表者は、組織の大きさから現場の状況を把握することは難しだが、総括がパイプラインとして、労働条件、環境条件の整備に努めるようにしている		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会もあり、本人の希望も取り入れてもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市 GH情報交換会、秋田県認知症 GH連絡協議会などに加入し、勉強会や交流の機会を設け、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時も見学、事前訪問し、本人・家族から話を聞く機会を設け、関係づくりに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時も見学、事前訪問し、本人・家族から話を聞く機会を設け、関係づくりに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自尊心を尊重し、人生の大先輩でもある利用者から学び、共に支えあう関係を築くようにしている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も、ご利用者を中心としたチームの一員であり、最も重要な理解者として関係を大切にしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている	本人から聞いた生活歴や馴染みの暮らし方、大切にしていること。またご家族からも情報を頂きながら、本人の想いや意向を聞き支援している	入所時の聞き取りで生活歴や馴染みの関係・場所の把握をしており、支援計画に活かしている。利用者の生活歴がわかる情報は随時個別ノートに記入し、職員間で共有していた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極めて、一人ひとりが孤立しないよう家事や役割を通して、またレクリエーションや、昼休みの時間などにも関わり合いをもてるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も継続的な関わりを必要とされる場合には、必要に応じた相談や支援に努めている		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めているが、職員側、介護側に視点になっているときもあるように思われる	入所時に聞き取った利用者一人ひとりの状況や意向はアセスメント表に整理して記録されている。入居後も利用者や家族から思いや意向を把握しており、支援に活かしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方、また家族からの情報をいただくなど、以前の経過も支援に活かせるよう支援している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で日々の心身状態や状況など、記録、申し送りなどで職員全員が共有できるように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、ケースカンファレンスなどで意見やアイデアを出してもらったり、利用者、家族の想いを取り入れ作成するようにしている	ケースの記録方法を工夫しながら、利用者や家族の要望をケアプランに反映させる取組みに努めている。管理者は、要望や課題を整理した「ケアプラン立ち上げシート」の活用を検討中である。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケア実践などで気づいた事や工夫を個別日誌に記入し、口頭でも伝えるようにし情報を共有し介護計画の見直しに活用している		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握し活用しきれていない。今後も資源の把握、活用、支援するための発信が必要と思われる		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族への希望を取り入れ適切な医療を受けられるように支援している。また、家族が受診の付き添いをしていただく際は、日常の状況が医師にわかるよう受診記録を作成し、担当医師より結果をもらうなど連携を図るようにしている	法人内の病院をかかりつけ医とし、歯科と薬局については利用者毎に対応している。職員は家族の協力を得ながら医療機関との情報共有に努めるなど、適切な医療を提供するための工夫がみられる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する介護老人保健施設の看護師から助言がもらえる環境はあるが日常の健康管理を把握まではいかないのが、情報と気づきの共有に今後も工夫し取り組み必要がある		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院に向け、病院関係者との情報交換を密にするよう努め連携を図るようにしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から話し合いはするが、地域関係者と共にチームで支援に取り組むまでに至っていない	平成13年の事業開始当初は重度化、終末期支援について想定しておらず、現在も対象となる利用者はいないが、今後は家族等からの要望もあり得ることを念頭に置き、法人内での検討を始めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践訓練は定期的に行われていないが、カンファレンスなどで再確認をするようにしている。また隣接の介護老人保健施設で行われる勉強会や講習会に参加するなどしている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は行っているが、地震・水害等の訓練まで具体的にできていない。今年度は計画に入れ実施予定	事務所内・リビングに緊急連絡先を整理して掲示している。火災訓練は、地域の協力を得ながら隣接する同法人立の老人保健施設とともに実施したり、ホーム単独での夜間避難訓練を行い、被災時の課題を抽出、確認していた。	訓練計画の中に、被災後の避難先や対応を明記して、職員の役割をよりはっきりさせていくことが期待される。また、夜間避難訓練で課題となった、避難後の二次災害防止策についても検討し、利用者の安全を図っていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応には十分気を付けているが、気付かないところで自尊心を傷つけていないか、常に振り返るよう心がけている	トイレ誘導の際などに、他の利用者に気付かれないようにさりげない声かけをするなど、プライバシーへ配慮していた。また、他のグループホームとの交流研修を実施し、言葉かけや対応についての意識向上に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の想いや希望を表わしやすい働きかけをし、様々な場面で自己決定ができるよう支援している		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援するようにしているが、利用者同士の関係性や職員側のペースになってしまっているところもある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望や行きつけの美容室に行ったり、使い慣れた化粧品の購入など、おしゃれが楽しめるよう支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、後片付けなど得意なもので無理なくできるようにしている。また食事中は、職員も一緒に食べながら、さりげなく声かけ、介助を行うなどしている	職員と一緒に準備や後片付けを行う利用者もおり、個々の機能や意欲を活かしている場面が見られた。食事中も、職員は利用者のペースを尊重しており、穏やかな会話を楽しみながら、さりげない介助に努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が楽しめるよう時間や好み、食べる量など希望にそって、その日その日に応じた支援をしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者の習慣となっている。また舌の汚れのある方、義歯の洗浄など個別の支援も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンシートを活用し、排泄状況が把握できるようにし、排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握を行い、排泄の自立に努めている。また、オムツやパットの性能情報を収集して本人の排泄の自立につながる製品選びをしたり、職員や家族への情報提供を試みている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食物繊維を多く摂れるような食事の工夫。また牛乳や個別に応じ野菜ジュースなど便秘薬だけでない工夫もしている。朝のラジオ体操も日課となっている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴は行っていないが、日々の健康状態を把握しながら、時間や毎日の入浴など入浴を楽しめるよう支援している。また、入浴できない場合は状態に合わせて清拭などの支援を行っている	脈拍・血圧を測定し、健康状態を確認しながら安全な入浴支援に努めている。入浴は利用者がリラックスして職員と会話を楽しめる機会でもあり、聞き取った思いを支援に活かすよう努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動が充実できるようにし、夜間の安眠へとつながるよう支援している。また休息も一人ひとりが安心して休めるよう場所や時間など工夫している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法など個別ファイルにまとめ、すぐに確認できるようにしている。わからないときは医療機関、薬局にすぐに聞くようにしている。また、服薬時は飲み込みの見守りなど注意している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力を生かせるよう生活歴や家族からの情報により、出来ることを見極め、プライドを大切にしながら役割や楽しみごとができるよう支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	全員で楽しむドライブの他に散歩や買い物など一人ひとりの希望にそえるよう支援している。また誕生日など個別で出かけたりしている。	ふれあい荘2号棟と共同で1台の車両があり、行事や外出の計画以外にも、利用者の要望に応じて出かけるなどの対応をしている。また、利用者が家族と外で会い、食事を楽しむ機会も設けていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員が所持していない、今後はもっと一人ひとりの希望や力に応じた支援を行っていききたい		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話できるように支援している。また年賀状など希望にそった支援をしている		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常生活の中で不快な音や臭いはほとんどない。荘内のところどころに椅子やソファを置き、ゆっくりできるよう工夫している。トイレ内はふたつきのものを設置するなど臭いと衛生面に注意している。廊下等に写真等で季節感を感じてもらうなど工夫している	共有の空間は余裕のある広さで、外光を十分に取り入れた明るい造りである。調度品は面取りがなされ、安全への配慮がなされている。気になる臭いや音もなく、利用者が座り心地の良いソファに腰かけながら思い思いに過ごしている姿が確認できた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	廊下のソファなどでゆっくりと気の合った方同士で話されている環境がある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人や家族と相談しながら、本人の使い慣れた物（家具・布団など）持参されている。またテレビなどが見れるようにするなど居心地の良いスペースとなるよう工夫している	利用者が居心地良く過ごせる居室について、個々の思いを聞き取り、尊重している。家具や日用品は一律ではなく、一人ひとりの必要や希望に沿って用意され、いずれも満足な生活につながっていることが伺われた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりを設置するなど、一人ひとりの能力アセスメントし自立した生活が送れるよう工夫している		